

東北学院大学災害ボランティアステーションは東日本大震災が起きた2011年3月29日に設立され、大学内の教職員と学生で組織運営している団体です。東北学院大学の中に学内のボランティアセンターとして位置づけられている組織で、主に中継機能と実活動を中心に行っています。『被災地と学生を繋ぐ架け橋になる』をモットーに、ボランティアの企画、運営、紹介を行い、現地の復興に貢献していくことを目指しています。本学内の学生にもボランティアへの必要性を認識してもらい、実際に学生がボランティアを行う際のサポートを行っています。現在は、宮城県内の5つ（七ヶ浜町・山元町・気仙沼市・石巻市雄勝・石巻市牡鹿半島）の地域を中心に活動を行っています。これらの活動は企画から運営、活動まで学生と教職員が共に主体となって動いています。

## 主な活動内容

### ●仮設住宅・復興公営住宅支援活動●



気仙沼市牧沢仮設住宅での活動



七ヶ浜町内復興公営住宅での活動

### ●漁業・農業支援活動●



牡鹿半島小湊浜での漁業支援活動



山元町での農業施設支援活動

### ●イベント運営補助活動●



七ヶ浜国際村での運営補助活動



雄勝町ホタテ祭りでの運営補助活動

### ●災害ボランティア活動●



熊本県御船での災害ボランティア活動



岩手県宮古・岩泉での台風災害活動

（2016年6月2日から5日）

（2016年9月～10月：計4クール）

## 現在わたしたちが抱えている課題

わたしたちの活動を通しての課題は主に2つあります。1つ目は、仮設支援活動での課題です。東日本大震災から今年で7年目を迎えて、被災地では、復旧時期から復興時期に移っています。復興支援は復旧支援とは異なり、目に見えない支援であるため、ボランティア受援者のニーズを知ることが難しいと考えています。課題を解決していくためには、地域の方々と交流をより多く重ねていくことが必要であると考えています。2つ目は、イベント運営補助活動での課題です。活動地域の知名度の低さや高齢化、また、深刻な人手不足が問題です。対策としては、若者だからこそできることを考えて、SNSでの広報活動や力仕事を率先して行うなど学生が中心となってイベントを盛り上げていくことを考えています。

そのほかに、ボランティアに積極的な学生が年々減りつつあることや、「ボランティア」にハードルを感じる学生がいるということ。震災への「風化」も進んでいることが課題として挙げられます。この現状を踏まえて、①組織で取り組んでいる活動や様子をしっかり発信していくこと。②ボランティアに入り込みやすい雰囲気づくりを提供すること。③現地の「今」を学生目線で発信すること。④地域とより連携をとりながら適正なニーズの収集を行うこと。これらが必要であることだと考えています。

## ボランティアにおける大学生の役割とは

**被災地ボランティアにおける学生の役割としては、地域の方と親密な関係を作り、一緒になって地域を盛り上げること。また現地の方たちの思い・活動していく中で感じた自分の思いを伝えていくということだと思います。**その中で『一緒に』というキーワードが重要であると考えます。ボランティアをする上で、どちらかが一方的に活動することはよくないことだと思います。それでは現地の方との信頼関係も作れず、地域を盛り上げることもできません。そのようなことにならないために、互いに支え合うということが大切になってくると思います。そうすることで一緒に一つのことができ、地域を盛り上げることができます。これからの将来のために今被災地に関わって活動している私たち学生の役割であり使命だと考えています。現在私たちが行っているボランティアの中で得た知識・経験を、東日本大震災を知らない小さな子供たちへ、当時こんなことがあって、現地の方たちはこんなことを思っていた。体験した。ということを経承していくことが大切になってくると思います。言葉や文にして相手に伝えることは決して簡単なことではなく、責任もともわってくるものですが伝えていきたいものである。もちろん、被害のことや体験の話の他にも被災地の魅力（食・文化）なども一緒に発信することも大切です。